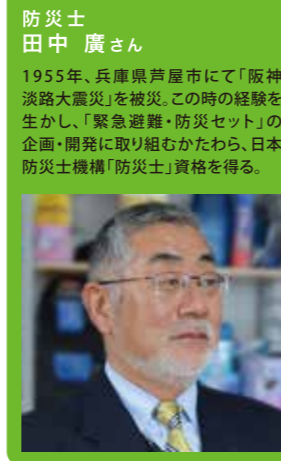




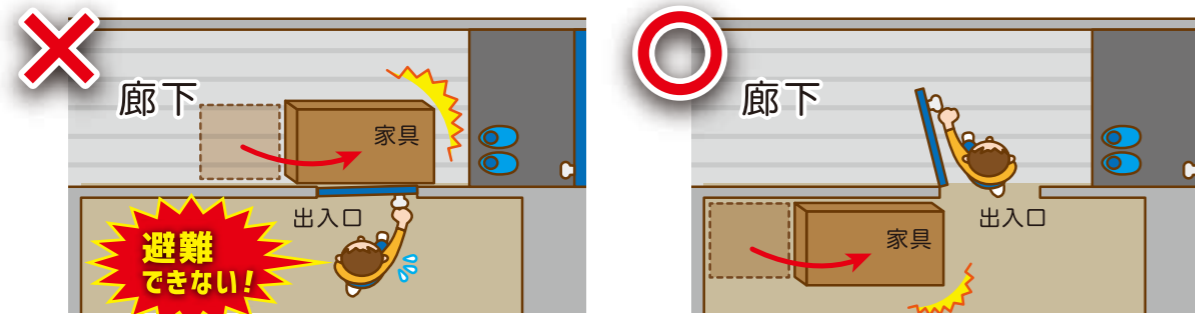
写真提供 / (財)消防科学総合センター <http://www.isad.or.jp>



防災士  
田中 廣さん  
1955年、兵庫県芦屋市にて「阪神淡路大震災」を被災。この時の経験を生かし、「緊急避難・防災セット」の企画・開発に取り組むかたわら、日本防災士機構「防災士」資格を得る。

### 1 避難通路の確保

- ① 転倒してドアが開かなくなる場所に家具を配置しない。
- ② 玄関につながる階段、廊下など通路には家具を置かない。転倒や、ガラスの飛散により避難の妨げとなる。



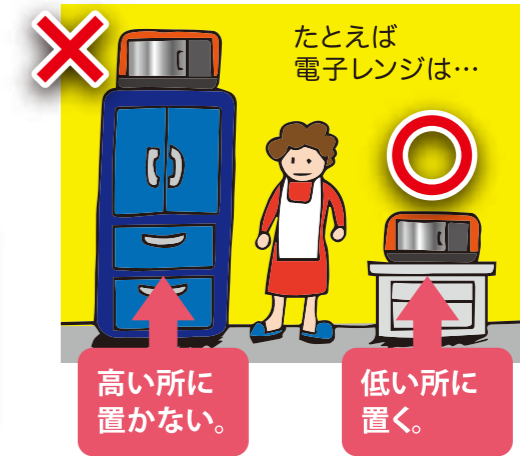
### 2 家具や家電製品の配置等を考える

- ① 就寝中は無防備。できるだけ寝室に背の高い本棚など倒れるような家具は置かない。どうしても置く場合は倒れても自分の方に倒れてこない方向に配置するか、倒れても自分に届かない距離を確保する。



- ② 食器棚や冷蔵庫はテーブルのそばに置かない。特に食器棚は転倒だけでなく食器やガラスの飛散などの危険がある。テレビなどは高いところに置いたり、自分のそばに置かない。冷蔵庫の上に電子レンジを置くことは危険。

阪神淡路大震災の時には、大きな揺れの反動でテレビなどは加速がついて、倒れるというより飛び出すという経験をしました。



- ③ ピアノや大型金庫などキャスターの付いているものはしっかり固定する。寝室や窓際には置かない。

キャスターの付いたピアノや金庫が部屋の中を動き回って、他の家具を壊したり、けがをしたという事例があります。



- ④ 食器棚など家具に物を収納する場合は、大皿の食器や辞典など重たい物を下段に収納。重心が下にくる上、万が一転倒しても上から重たい物が飛び出たり、落ちてこないのが安全。

大皿や重たい食器等は下段に収納。



- ⑤ スリッパなどを身近に用意しておく。玄関に鏡を置く場合はしっかり固定する。もし割れた時、靴の中にガラスが入らないように、普段から靴を収納するクセをつける。

室内はガラスの飛散などで素足で歩くと危険ですし、足にけがをすると避難行動がとれなくなります。阪神淡路大震災の際、私含め家族全員靴を履いて室内の片づけをしました。



### 3 家具の固定

- ① 固定グッズや耐震マットなどを使用して、家具や家電製品が倒れたり移動したりしないようにする。
- ② ネジなどがすぐに外れては危険なので、できるだけ柱や鴨居など強度のあるところを利用する。壁を利用して固定する場合は壁の強度も考慮に入れて固定する。